地域づくり表彰

「こちら三島の人事部」三島信用金庫・うさぎ企画（静岡県三島市）

すまい・なりわい・モビリティ連携型の、移住者や来訪者を担い手に変えるまちの窓口



三島信用金庫・企画役 斉藤陽大

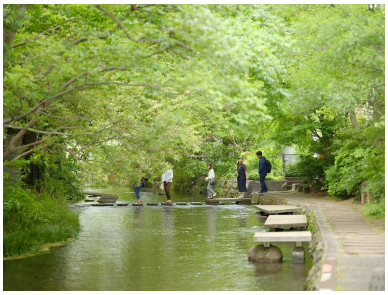


うさぎ企画・代表 森田創

１．三島市の概要

三島市は静岡県東部に位置し神奈川県箱根町と接しています。奈良・平安時代には伊豆の国府が置かれ、江戸時代は東海道の宿場町として栄えた歴史豊かなまちです。富士・箱根・伊豆の玄関口にあり、交通の要衝としても発展してきました。市内各所に富士山の伏流水が流れる「水の都」としても知られています。

また新幹線三島駅から東京都心まで 40 分強という交通利便性とオープンな土地の気質があり、首都圏からの移住者が多く、二地域居住者を含めた市外の関係人口も街の盛り上げ役として数多く活躍しています。



市内中心部を流れる富士山の伏流水

２．団体概要と活動の経緯

三島信用金庫は、伊豆半島一円の企業支援と活性化を手掛け、近年はスタートアップ企業と連携した地域課題の解決にも取り組む信用金庫です。うさぎ企画は、二地域居住・関係人口・モビリティを活用して地域を活性化する、まちづくり企業です。両社は数年前から複業人材活用による企業支援で協業してきましたが、首都圏の複業人材が日帰りで来訪するため、地域定着しない状況を改善したいと考えていました。来訪した複業人材を地域の担い手とするため、両社の強みを活かし、定着に向けた相談窓口を開設したいと考えていた 2025 年、信金支店の有休スペース活用の話が舞い込んできました。





三島信金有休スペースを活用した相談窓口「こちら三島の人事部」

３．地域課題

三島市および隣接する長泉町は、首都圏移住者が急増する一方で、近年の大手企業のリアル出社への回帰により、年間数百人単位で首都圏に再転出する流れが続いています。

また両市町では、業種を問わず、中小企業の跡継ぎ問題（事業承継）が深刻化しており、地域全体の事業継続性が危うさを増しています。

４．相談窓口の開設（移住者や来訪者の担い手化）

こうした地域課題を解決するため、移住者や複業人材、関係人口を街の担い手として活用し、地域定着を図りながら、いずれは事業承継の予備軍になって頂こうと考えました。

相談窓口「こちら三島の人事部」では、移住者・二地域居住者・複業人材への求職相談や起業支援、コミュニティ紹介、住まいや暮らしのサポートをワンストップで行うことで、誰もが街を好きになり、課題解決の担い手になるお手伝いをしています。



うさぎ企画による二地域居住者の起業相談

５．工夫している点／特色

①求人情報やスキル人材の情報を見える化した「GIVE&TAKE ボード」の掲示

・来訪企業には求人情報を、来訪人材にはスキルや経験を手書きで書いて頂く「GIVE&TAKE ボード」を窓口入口に掲示。連絡したい企業や人材がいれば、窓口に言うだけですぐ連絡できます。素早いマッチングにつなげる工夫をしています、

・情報源が限られる移住者などボード目的で来訪する人材も多く、交流ツールになっています。街のイベント情報の掲示も無料で行い、従来信金には足を向けなかった多様なプレイヤーの来館が相次いでいます。



窓口入口に掲示された GIVE&TAKE ボード

②「まちとつなげる」ゲストハウスや交流拠点との密な連携

・窓口には、街のゲストハウスやコワーキングスペースなどの交流拠点の利用者が、街との関わりを求めて数多く来訪します。三島エリアでの二地域居住や移住を考える関係人口も、地域での暮らしが

イメージできるゲストハウスや交流拠点の情報を求めてやってきます。窓口が街の入口として、ゲストハウス・交流拠点と密に連携し、来訪者が地域に定着する支援を街ぐるみで行っています。



お試し移住者とのゲストハウスでの交流

③移住者を担い手に変える！「移住者交流会」の実施

地域課題の項で触れた通り、三島市や長泉町では首都圏からの移住者が、地域定着する前に、再び首都圏に回帰する流れが続いています。

そこで、移住者の地域定着を進めるため、三島市と連携して「移住者交流会」を行い、昼食をとりながら生活の悩みやお気に入りの場所などを情報交換する懇親会を行っています。2026 年 8 月の 2 回目は、告知後 3 日間で満員となり、地域のつながりを求める移住者のニーズの高さがうかがえます。



移住者交流会の様子

６．地域資源の活用

①三嶋大祭りツアー×モビリティによる地域愛着

・ゲストハウスと連携し、三嶋大祭りの参加客を、長泉町のオンデマンド交通「SPICEBOX」に乗せて地域の名所を案内し、地域への愛着と再訪意欲を高めるツアーを行いました。



三嶋大祭り参加ツアーとの連携

②移住検討者をオンデマンド交通で案内し、地域の解像度をあげる

窓口には三島エリアへの移住検討者も多く訪れます。家族構成やお仕事によっておすすめするエリアも異なります。小さいお子さんのいる家族層なら、商業施設や学校、広い公園の存在も気になるもの。そこで長泉町のオンデマンド交通で案内し、移住後の生活環境の確かめてもらうことで、移住場所を納得して決めていただく支援を行っています。



移住検討者のオンデマンド交通での案内

③「まちなか演劇祭」開催を通じた、移住者の担い手化

交流拠点「みしま未来研究所」で、地元の演出家や俳優と連携し、2026 年 11 月に「まちなか演劇祭」を開催します。誰もが気軽に演劇に参加できる機会を作り、ボランティアも募集し、窓口に相談に来る移住者が担い手となり、地域と距離を縮める場としても活用します。



まちなか演劇祭のチラシ

７．活動の持続可能性

「こちら三島の人事部」は全ての相談が無料ですが、活動を継続するには原資も必要です。

そこで、三島信用金庫では有料職業紹介事業の資格を活かし、地域企業への採用マッチングを通じた手数料収入を得ていく考えです。

また三島信金とうさぎ企画は、県内外の大企業のシニア社員向けに、リスキリングスクールを開催しています。スクール卒業生には、複業人材として地域課題解決に貢献頂くべく伴走支援も行っており、窓口スタッフとして複業で関わった事例もあります。シニア社員の活用に悩む大企業からの収益化も見据えて取り組みを進めています。



静岡鉄道とのリスキリングスクール

８．成果

「こちら三島の人事部」を開設してまだ１年であり、目に見える成果はこれからという状態です。

しかし私たちの取り組みは、来訪者と継続したご縁を結ぶことで、地域に定着頂き、担い手化していく循環を作ることにあります。

その意味では、この１年での相談件数が増えており、年間３０件近いマッチングがこの場から生まれていること、地域のプレイヤーに頼られる場になりつつあること、移住支援をした方がさらに街との結びつきを深めている現実があります。目の前で起きたそうした動きを大事にしながら、一つ一つのご縁が、さらなるエリアの活性化につながることを信じて、今日も窓口に立ち続けます。

９．今後の活動

先に触れた通り、地域の中小企業の跡継ぎ問題（事業承継）が重大な地域課題です。現在進めている都内大企業とのリスキリングスクールも活かして、都内企業のシニア人材を三島エリアに誘致し、複業やボランティアを通じた地域定着を進めながら、いずれタイミングが来たら、事業承継の候補者として育成したいと考えています。人材活性化にも地域課題の解決にもつながるモデル構築を目指して奮闘を続けます。